

えぬびい! Oh!

2012 冬
Vol.52



▷2~3P
本当の地域の学校へ
~土佐山アカデミーの挑戦~

▷4~5P
ドイツ⇄日本 こどものまち漫遊記

▷6P
高知県青年にぎわいポニート
「ship for ship プロジェクト」
~東北へ漁具倉庫を!~

▷7P
ドキドキのボランティア・デビュー
~誰かの役に立つ事?何ができる?~

▷8P
国語クイズ&編集スタッフのつぶやき



本当の地域の学校へ

～土佐山アカデミーの挑戦～

今年1月、高知市土佐山地域（旧土佐山村）を舞台に「土佐山アカデミー」（以下、アカデミー）が運営する地域の学校が開校された。「自然・暮らし・社会」をテーマに、講習会や地域資源の活用方法を考える研修などを企画している。アカデミーが目指すものは―。



▲生活が自然の中にある土佐山地域

地域の学校

アカデミーのメイン事業は、土佐山地域を中心とした1期3カ月間の滞在型研修だ。研修生は期間中、テーマ毎に講義やフィールドワーク、ディスカッションに参加する。自然

との共生や持続可能な社会づくりがプログラム全体のテーマとなっており、一部の地域住民も研修生との交流を通じて、薪風呂や炭作りなど地域資源の活用方法などを研修生に伝えている。また、報告会では地域住民や講義を担当した外部講師が集い、研修生が滞在中にまとめた発表に耳を傾ける。

土佐山地域は自由民権運動の発祥の土地として、古くより住民が学びの場づくりや自治を積極的に進めてきた。今もその風土は残っており、外部との交流に意欲的な住民も少なくない。また、まちの近くにありながら自然の豊かさを体感できることから、研修生にとって自然と社会との関わりを実感できる絶好の場となっている。

研修生の声

今夏、県外よりインターンシップ生として研修に参加した学生に話を聞いた。彼の最も印象に残った学びは、河川の生態系を保存するための「魚道」を人工的に作る技術についての講義だ。「魚道を作るのは工学的技術だが、生態系を守るためには生物学的知識も必要」と語る講師の言葉が、今（技術）と昔（自然の法則）を融合させることの重要性を強く感じさせた。さらに、その知識はフィールドワークの経験とも重なるようで、「インターンシップが終わっても生活が大きく変わることはないかもしれないけど、ここでの生活はずっと心に残っていく」と話す。その他の研修生も、「都市生活と自然の結びつきを実感した」という意見が多く、その後の生活の意識変化につながっているようだ。

▼住民が講師となったフィールドワーク



開校のために・・・

アカデミーのスタッフは6人。昨年夏、発足を予定されていたアカデミーのスタッフ公募に集まった。以来、開校に向け、地域内外への説明会・広報活動などを進めてきた。年齢は20代から50代まで幅広く、全く異なった経歴を持っている。ビジョンや手段を具体化していく作業などで、意見が対立することも多々あったようだ。しかし議論を重ねる中で、次第にスタッフのなかに「自然と共存する生

スタッフの内、土佐山出身者は1人だけ。地域の中に好意的な住民が多いと言っても、外部から移住して溶け込んでいくのは簡単なことではない。地域の行事や集落活動への参加の積み重ねが、今の住民との関係を築いてきた。しかしそれは、住民がアカデミーの活動へ協力することは別問題。スタッフは「これから、アカデミーとしての活動目的は伝



▲昔の土佐山地域について地元住民から話を聴く

き方を伝えていきたい」という共通した価値観が芽生えていった。そうした話し合いが続けられた結果、6人の想いは「自然の一部として生きる文化の担い手を育む学びの場をつくる」という行動目標に集約されていった。

10月にNPO法人となったアカデミー。現在は、高知市の夢産地とさやま開発公社の一事業としての活動から独立した組織になった。地域の中にも活動の輪が徐々に広がり、地域とともに活動を継続していく仕組みもできあがってきた。しかし、スタッフの山本さん

▼報告会に集まった住民・講師・スタッフ・研修生

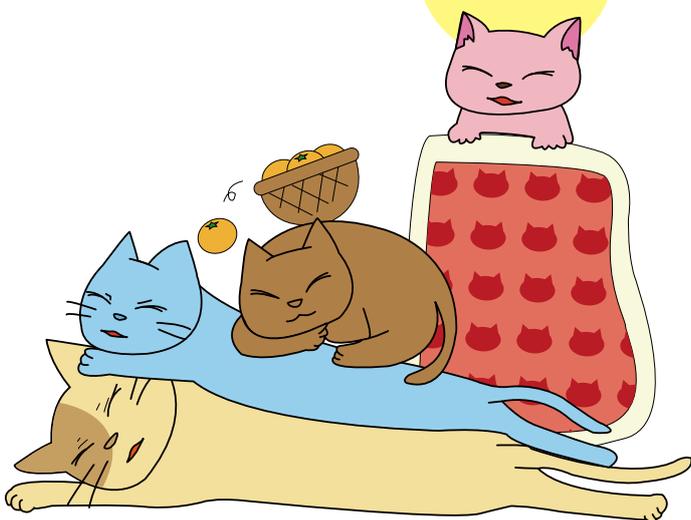


これから

え続けていかなければならない」と話している。

によると「まだ課題は残っている」という。その一つが、フィールドワークが同時に労働力不足の解消などの地域貢献にもつながる、「サービスマーケティング」を推進させることだ。地域にとって、アカデミーに集められたイベント参加者との交流の場は決してマイナスではないが、「より目に見える形で地域にも貢献していきたい」と、山本さんは考えている。また、スタッフの林さんは、「今後は研修生にも先生になってもいい、お互いに教え合えるようになれば」とアイデアを膨らませている。

(有田)



ドイツ⇄日本 こどものまち漫遊記

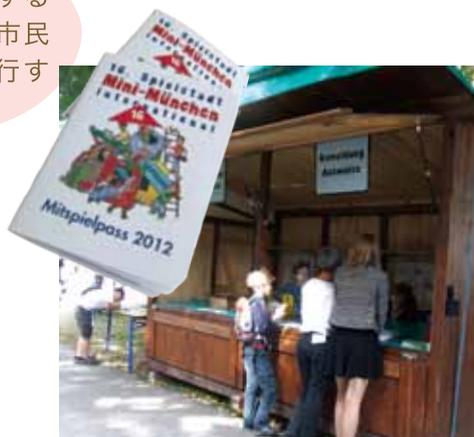


高知の「とさつ子タウン」など全国各地で行われている「こどものまち」の取り組み。
その発祥となったのは、ドイツで30年以上続いている、あそびのまち「ミニミュンヘン」。2年に一度、夏休みの間の3週間だけ開催されていて、まちの中では仕事をしたり、遊んだり、実際の社会さながら。全国のこどものまち関係者も見学に訪れています。
8月某日、よさこいに沸く高知を発ち、仙台や横浜など「こども」に関わっている方々とミニミュンヘンへ潜入してきました！



ミニミュンヘンに参加する子どもたちが持っている市民証。もちろん、これを発行するのも子どもです。

アカデミーの時間割を掲示した黒板。大人から教えてもらうだけでなく、授業を開いて自分の得意なことを他の子どもたちに教えることができます。



結婚の記念撮影！！
ミニミュンヘンでは子ども同士の結婚もできます。

会場内には日本語で歓迎する言葉や「友」の文字がたくさん書かれています。でも、よく見みると…
あらら、「京都、センダイコーチン」に。笑





議会では予算の問題など話し合う内容はもちろん、議場も本物そっくり。傍聴する子どももたくさん！

見学した日の議会では、体を動かして遊べるスペースを使って、ミニミュンヘン内でオリンピックを開催することが決定しました！！

実際のミュンヘンの地図を参考に都市計画。自由な発想で作られた公園や建物の模型が展示されています。



そして、日本へ…



10月には千葉県で開催されているこどものまち「ミニいちかわ」（市川市）、「ミニさくら」（佐倉市）、「CBT」（千葉市）の主催者を中心に「こどもがつくるまち全国主催者サミット'12 in 千葉」を開催。サミットの司会はこどものまち経験者の高校生コンビ！

ドイツでのこどもに関する取り組みの紹介やミニミュンヘンの主催者から日本のこどものまちへ向けたメッセージもありました。

また、全国から集まったこどものまち主催者同士で10年後に向けて夢や理想について話し合いました。

現在、小学生のこどものまち参加者も10年後には成人。こどものまち参加者は何を考え、何を思い、どんな大人になっていくのだろうか：
大人たちのこどもたちを支える環境作りが試されている！！

（大野）



全国のこどものまちの紹介には、「とさっ子タウン」も登場！！

こどものまち参加者のセッションではとさっ子タウン市長も登壇しました。

高知県青年にぎわいポニート 「ship for shipプロジェクト」

～東北へ漁具倉庫を！～



▲それぞれがしっかりとしたイメージを持ち、議論を行っています。



▲今年度参加したみちのくよさこいの様子。

高知県の伝統ある「よさこい」。アレンジのしやすい親しみやすさから多くのファンを持ち、日本各地で様々なよさこいイベントが開催されています。東北の「みちのくよさこい」もそのうちの一つです。このイベントへの参加が、現在につながる活動への一歩にもつながりました。「みちのくよさこい」へ参加した時に被災地の状況を目の当たりにし、高知へ帰ってきた後も被災地の状況が気になっていました。なにか自分には出来ることがないだろうか、と感じ再び東北へ。被災した方たちの生の声をヒアリングし、本当に必要とされているものを聞き出していくうちに「漁具倉庫をたてる」という結論へとたどり着きました。

きっかけは「よさこい」

先年の大震災で被災した東北（閉上地区）の漁業を復興するために、漁具倉庫を建てようとして活動している高知大学3回生の宮崎哲太さんにお話を伺いました。

漁業者の方々は、多くの資金を必要とする船などは国からの補助金が下りるものの、漁業を実際に行うための網などの道具をしまう倉庫がなくて困っているとのことでした。

プロジェクト始動と念願の漁具倉庫

社会人や大学生など幅広い年齢層、分野にわたって多くの人が所属している「高知県青年にぎわいポニート」。プロジェクト始動から約半年ではありますが、現時点で約200人が関わってくれています。これまで1年かけて動かしてきたプロジェクトの成果も9月25日に漁具倉庫一棟目が完成という形で現れました。

悪天候の中、協力して下さっている大工の方々や、現地の方々のおかげで完成した漁具倉庫。念願がかなったと同時にこれからの活動に向けての活力も生まれました。まだまだ目標としている15棟には程遠いですが、多くの賛同者を得つつ東北支援の輪を広げたいと思っています。

(話し手 宮崎哲太)

自分のできることに

宮崎さんのお話を聞き、私はこれまで「〇〇支援」、「〇〇援助」と聞くことあまりにも自分にとって大き過ぎると感じ、参加をためらったことが何度もありました。しかし、このポニートの活動の様子を伺ううちに一人ですべてを解決するのだ、というような気が張った考え方をしなくても大丈夫なのだと思

うようになりました。単純に「何かしたい」と思う気持ちを持ち続けて行動してみることがなにごとにおいても大切なのだと今、感じています。

(高知大学 藤田早紀)



▲今年度参加したみちのくよさこいの様子。



▲悪天候の中1棟目を建設しました。

ワンコイン鳴子募金とは？

漁具倉庫を立てるための資金調達として、にぎわいポニートでは1口500円で鳴子を購入してもらい、その鳴子にメッセージを書いて被災者に手渡し、募金されたお金は漁具倉庫建築の費用に当てられます。ただお金だけを送るよりも気持ちが伝わる取り組みです。

誰かの役に立つ事?何ができる?



始まりのきっかけは人それぞれ

皆さんはどのようなきっかけでボランティアを始められましたか?私の場合はボランティア活動とは全く関係ないところからの始まりです。アイデア商品・・・脱がずに足だけ解放できるストッキングの実現化を目指しこの5年あまり繊維工場への直談、手作り改良、メーカー送り、展示会出席、ブログ、一人で考え付く事はいろいろやってみました。どれも進展は見られず、困った時の神頼みでしょうかね、今年も金比羅初詣に行ったのです。「考案したストッキングが実現しますように」「二礼二拍手一礼!ですよ。でも降り階段で・・・(そう云えばこの5年間、震災などいろいろな事が起こっているのに自分の事ばかりお願いしているなあ)気が付くと「誰かの役に立つ事?何ができる?」と考えていました。初詣から後もその思いが頭から離れず「奉仕活動」でネット検索してここまで辿り着きました。

はじめの一步のそのまた一步

ボランティア未経験。特技なし。こんな私に何ができるのだから? (えーい!そんな事ごちゃごちゃ考えてもしょうがない!)「広報部に入っているんな活動を知るのも一つの方法じゃない?」と声を掛けて頂き、無謀にも参加。更に「ボランティアガイダンスの司会をしてみませんか?色々な活動を知る良いきっかけになると思いますよ」とお誘いを受け、これ又、無謀にも司会をさせて頂く事になった訳です。そしてこれが私の初ボランティアとなりました。

▼84Tシャツで個別相談中の川村さん



「高知の森林のブランド化を進めたり、他にもいろんな企画はあるんだけど、人手不足で・・・」と高知大学を休学し事務局を務める川村聡志さんは忙しいそう。

いざ!ボランティアガイダンス2012

8月26日ふくし交流プラザで開催。「間もなく開会いたします」の一声からあっと云う間の2時間30分。次々と多種多様な団体を紹介しお話を聞いているうちに、私のボランティアへの認識の誤りに気が付きました。今までは依頼を受けて活動するというイメージでしたが、自分のしたい事を進んで誰かの為にやる事だったんですね。個別相談の時間に幾つかのブースにお邪魔させて頂きました。

幸せそうな犬猫の写真に誘われて椅子に座る。「保健所での犬猫の処分の方法を知っていますか?決して安楽死ではないんです」といきなり語り始める『すまいる・わん』の三宮富美さん。「子どもの頃から犬好きで一匹でも命を救いたい、だから仲間が必要なんです」とも。

肩たたき棒や369種類の木のスプーンを載せたジャバラ折りの本を机一杯に広げ、端にはログハウス風の家のディスプレイ。なんだろう?と覗き込んでみた。森林率日本一(84%)から名付けたNPO84(はちよん)プロジェクト!

色々な種類のパンフをたくさん並べボードにはライブ風景の写真。B4サイズのパンフには両面余すところ無くライブ情報が書かれ、すべて自分達で作っているという。熱意溢れるこうち音の文化振興会代表の北村真実さんはピアノで、自分の演奏活動の合間に、HPやツイッターで高知出身・在住の演奏者の情報発信などをして、活動の応援をしているとの事。



▲活動紹介をする北村さん

今回、ボランティアガイダンスでのボランティアを経験し、皆さんのいきいきとした表情を間近で見聞きする中で、その気持ちを大事に沢山の人に伝えるお手伝いをしたいと思うようになりました。最初の出だしはどうであれ広報部というボランティアを楽しみたいと思います。

(右貞あゆ)

ボランティアガイダンス

(主催)高知県ボランティア・NPOセンター/高知市市民活動サポートセンター)

「自分にあつたボランティア活動をみつきたい人」と「ボランティアを募集したい団体」の出会いの場。

ボランティア「はじめの一步」講座とボランティア団体の活動紹介の後、各団体のブースごとに個別相談を行いました。

国語クイズで楽しんでください!

提供:文章サークル

<初級> 足し算すると、どんな字になるでしょう。

ウ + 工 + 八 = □

ヒント:外に出て見上げると、頭のうえは?

木 + 木 + 木 = □

ヒント:木が2つなら林。
もっとたくさん木があるところです。

車 + 車 + 車 = □

ヒント:車がたくさん通れば、大きな音が響きます。



<中級> 漢字は主に中国から輸入されました。しかし日本で作られた字(国字という)もあります。字のイメージから読みかたを考えてみましょう。

凧 () 凧 () 凧 ()

鯉 () 鱈 () 鯉 ()

峠 () 禁 () 袴 ()

@じゅんさん
限界集落といわれる山里の棚田に関わって3年目。今年も順調に稲穂が実って間もなく刈り入れという時にイノシシに荒らされた。見事に稲穂がなぎ倒されていた。春先に見たウリ坊は可愛かったが.....

@たけま
スマホデビューいたしました。あらためて見るスマホワールドは广大で、色々と便利そうです。これからは外出先で、食べる料理を写真付きでどんどん紹介出来そうですが、問題は、よく携帯を忘れて外出することです。

@あおき
念願の山ガールデビューを果たしました。カラフルなスパッツに巻きスカート、色鮮やかな原色に身を包んだ私の姿は、まるで太ったヤイロチョウ。高知の山をポテポテ飛び回ります。

@しのみや
高三の次女に「京都へ帰りたい!」と、京都の志望校を告げられた。長女も然り。先年、京都からUターンした我が家。京都で生まれ育った三姉妹は、ふるさは京都だと言いつける。だから「京都へ帰る」なんだ。ふるさはここじゃないんだ.....

#編集スタッフの つぶやき

@のむ
痛っ、かっ階段が上がれない。立ち上がれな〜い。とほほ。このまま治らないかも。恐るべし腰痛!絶望の淵で、この身体と付き合っていくしかない、と覚悟を決めた。腰は要を痛感し、ままならぬ身体を持って余し、弱い立場を体感した、今年の夏の思い出。

@森岡
とさっ子タウン2012終了。今年の起業家は手強かった。濡れ手に粟を目論み、起業サポートセンターでサラ金やカジノの開業申請。今回は断ったが、次回までに「こども議会」での検討を約束。恐るべし!とさっ子起業家。

@よっしー
最近は学校の課題が多く、大変です。学校行事は学園祭から始まり、検定、終了制作と、とても忙しく、日々眠気との戦いです…。もっと頑張らないと...

@によん
2012年は、初めての経験を沢山しました。専門学生になって、行動範囲や物事の見解が広がった気がします。今迄は受け身だったのですが、これからは、あらゆる事に自ら進んで挑んでみようと考えています。

@梶
近頃寒くなってきましたね…。最近、学校の授業と課題とバイトで大忙しです。そろそろ冬眠でもしてみたい……笑)我が家の愛猫は時間さえあればひたすら寝ています。その睡眠時間ちょっとくらいわけてくれ……。

解答:
空(そら) 森(もり) 轟(とどろ)く
なぎ・た こ・こがらし
ひらめ・た ら・かつお
とおげ・ふもと・かみしも

発行 高知市市民活動サポートセンター
企画編集 認定特定非営利活動法人 NPO高知市民会議 広報部会
〒780-0862 高知市藤原町2丁目1-43 高知市たかしょう庁舎2階
月~金/10:00~21:00 土/10:00~18:00(日・祝日は休み)
TEL: 088-820-1540 FAX: 088-820-1665
E-Mail: npokochi@siminkaigi.com
WEB: http://www.kochi-saposen.net/

素材→©Silhouette Design

表紙・挿絵 国際デザイン・ビューティカレッジ 佐々木杏菜 吉岡優美 梶西紋史沙
編集デザイン 国際デザイン・ビューティカレッジ 中越舞
タイトルロゴデザイン 国際デザイン・ビューティカレッジ卒業生 西森美和 前野さくら